

## 「万葉集」と百人一首

元号が「令和」となり、『万葉集』が注目されました。「令和」は、万葉集巻第五、梅花の歌三十二首の序文「時に初春の令月（れいげつ）にして、気淑（きよ）く風和らぎ」を典拠としています。実は、百人一首には『万葉集』の歌は一首も収録されていません。百人一首の歌は『古今和歌集』をはじめとする十冊の勅撰（ちよくせん）和歌集（天皇の命令によって作られた和歌集のこと）の中から選ばれています。

例えば、持統天皇の「春過ぎて夏来にけらし白妙（しろたえ）の衣干すてふ天の香具山」は、『新古今和歌集』からの出典です。『万葉集』にあるのは、「春過ぎて夏来たるらし白栲（しろたえ）の衣干したり天の香具山」という原歌です。

百人一首の歌人たちは、悲しく激しい運命に翻弄された人物が多いのが特徴です。また採用された歌は、必ずしも各歌人の名作とは言えないものを選んでいるという学説もあります。百人一首に選ばれたからこそ、後々の鑑賞者によって、代表歌としての価値が付加されていたのでしょうね。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部顧問 青池のぞみ